

大好き！絵本

初瀬 恵美



『ぞうくんのさんぽ』
さく・え：なかのひろたか
レタリング：なかのまさたか
出版社：福音館書店

青葉がゆれ、晴れた日がとても心地よく感じる季節となりましたね。でも、5月だというのに、夏のような暑さがおとずれたり…逆に寒かったり…今年は、気温の変化に合わせるのがとても大変ですね。

そんな目まぐるしく変わる天気ですが、本格的な梅雨や夏が来る前のこの時期に充分楽しみたい「さんぽ」をテーマにした『ぞうくんのさんぽ』を今月は紹介させていただきます。

この絵本の初版は今から45年以上も前です。(1968年初版)。なのでお父さん、お母さん世代、そして若いおじいちゃんやおばあちゃん方も、もしかして子どもの頃に大好きだった絵本のうちの一冊かもしれません。そんなにも前から変わらず子どもたちの心をつかみ続けている絵本なのです。その魅力の一部をご紹介しますと思います。

「きょうは いいてんき」とぞうくんが散歩にでかけました。優しくて力持ちのぞうくんは、出会ったお友達を次々と背中に乗せてあげ、一緒に散歩をします。ところが、うんと小さくて軽いかめくんをのせて歩き出した途端、バランスを崩し、どっぼーんと池に落ちてしまいました。しかし、池に落ちこちても「きょうは いいてんき みんな ごさげん」と、水遊びを楽しむ絵本です。

実に、シンプルなストーリーですが、そのシンプルさが小さい子どもたちからも人気の理由の一つです。また絵本の表紙の絵はシンプルでかわいい動物がついています。中でも一番人気のぞうが表紙についているので「ぞうさん！」とか「ぞうくん！」と絵本を見て選ぶ子どもたちも多いのです。

先日、もうすぐ2歳になるいっきくんと一緒に絵本を読んでいた時のことです。ぞうくんがかばくんをのせて歩きはじめると、立ち上がり、「ウーン、ウーン」と手に力を入れていました。かばくんの上にさらにわにくんをのせると、次は顔を真っ赤にして「ウーン、ウーン」と踏ん張っていました。ぞうくんを感じる「重い」を全身で表現しているのです。絵本でぞうくんは、そこまで重そうな顔はしていません。ただ、一人ずつ増えると「ぼくは ちからもち」から「うん うん おもいな」「うん うん おもいぞ」と言葉のニュアンスが変わるだけです。でも、「おもい」という言葉や絵からぞうさんへの負担を感じ取っているのです。それは多分いっきくんが毎夕方、遅番の部屋へ移動するとき自分の荷物が入ったリュックサックを自分で背負って移動する経験からくるのかなと思いました。リュックが軽い日もあれば、遊んで汚れて水洗いした服や着替えが入り、パンパンに膨らんで重い時もあります。以前は重いとき足腰がフラフラしていましたが、今では走って移動できるくらい力がついてきました。そんな経験からのリアクションだったのかなと思います。そして「どっぼーん」とみんなで池に落ちる場面でも、見事にこけて再現していました(笑)。最後の水浴びの場面でも気持ちよさそうにして、絵本の中の世界を存分に楽しんでいました。絵本の世界を全身で表現しながら楽しむことができるいい絵本であり、絵本を通して子どもたちの心を解放してくれる素敵な絵本だなと思いました。

この絵本を作られたなかのさんは、「どこの国の子が見たって、「おもしろいな」というものを作ろうと」している、とおっしゃっていました。(福音館子どもの友50周年記念ブログ <作家インタビュー>『ぞうくんのさんぽ』が生まれた日)ここは、日本ですが「長年愛されている絵本=おもしろいな」であることは間違いありません！どうぞみなさんも、ご家庭でご覧になられてみてください。

